

名鉄の高山線直通列車のあゆみ

(昭7) 10.08	柳橋～下呂の直通電車の運転を開始（土曜・休日） この当時の会社名は名岐鉄道で、名古屋市内のターミナルは押切町であったが、電車は名古屋市電に乘入れて柳橋まで走っていた 当時の最新型電車750形の755・756号を半室畳敷きに改造して乗入れた 鶯沼からは高山線の客車列車に併結
(昭8) 07	乗入れ車両を畳敷き、トイレ・貫通路付きに改造した250形251・252号に変更
(昭10) 08.01	名岐鉄道と愛知電気鉄道が合併→名古屋鉄道
(昭15) 10.10	押切町～富山の直通列車を運転開始（毎日1往復） 国鉄の客車を使って直通運転を実施 名鉄線内（押切町～新鶯沼）は、名鉄電車（700形2両）が客車2両を牽引し、鶯沼から富山までは国鉄の客車列車に併結
(昭16) 08.12	新名古屋駅が開業、乗り入れは新名古屋～富山に変更 押切町～枇杷島橋は廃止に。この年の12/8に太平洋戦争始まる
(昭18) 頃	戦況が悪化し、高山線乗り入れは中止に
(昭40) 08.05	神宮前～高山の準急「たかやま」号が運転開始 キハ8000系気動車を新造し使用
(昭41) 03.05	急行「たかやま」号に昇格
(昭41) 07.26	キハ8000系がブルーリボン賞を受賞
(昭41) 12.01	「たかやま」号の運転区間を飛騨古川まで延長
(昭42) 07～08	キハ8000系を土曜の夜に国鉄へ貸し出し、国鉄名古屋～岐阜～高山の夜行臨時急行「りんどう」号として運行
(昭45) 07.15	急行「北アルプス」号に改称。 運転区間を延長し富山地方鉄道の立山まで乗り入れる この後、毎年4～11月に立山直通運転を行った（冬期は飛騨古川止まり）
(昭47) 09.27	鶯沼での折り返し運転を廃止し、鶯沼通過、犬山停車に変更（下り列車は9.28より）
(昭51) 10.01	特急「北アルプス」号に昇格。 これに先立ち、先頭部を国鉄の特急気動車に準じた塗り分けにした
(昭55) 17.15	「北アルプス」ヘッドマークをイラスト付きに変更
(昭59) 07.01	「北アルプス」号の富山地鉄・立山乗り入れを廃止。 神宮前～飛騨古川の通年運行となる
(昭60) 03.14	「北アルプス」号の運転区間が神宮前～富山になる

(平2) 03.10	「北アルプス」号の運転区間が神宮前～高山に短縮
(平3) 03.16	「北アルプス」号に新鋭のキハ8500系を導入 それまで使用されたキハ8000系は引退した
(平13) 09.30	「北アルプス」号はこの日限りで廃止。 サヨナラ運転を実施 戦前から始まった名鉄の高山線直通列車の歴史はこれで終了した。 「北アルプス」用の8500系は、その後「会津鉄道」へ譲渡された